

10. 家事労働について 第4報 (はき掃除)

埼玉大教育 稲葉 ナミ

1. 家事労働の時間的分析の結果、食住衣に関する労働の割合が減少し、育児・その他の家手(管理的分野)が増加する傾向のあることが分った。

食住衣の家事労働のうち、食衣については機械化されてきたが、掃除の機械化は一般化しているとはいえない状態である。そこで、衛生的にも問題である、はき掃除についての実験を行い、時間的問題以外、質的な結論を得たいと考えた。

2. (1)粉塵埃において、一定量のごみを発塵し、1時間半後に、ほうき電気掃除機(2種類)を用いて掃除し10分毎に、2種の計器を用いて採塵し、空気 1m^3 中の塵埃数を測定比較した。

(2)電気掃除機を既に使っている家と然らざる家について、同様に掃除を行い、その採塵量を比較した。

3. (1)電気掃除機の排気によって、ごみがまい立つ心配のないことが分り、衛生的なことが確認された。

(2)電気掃除機の採塵量は両方の家共にほうきの9~11倍に及び、電気掃除機を常用している家の採塵量は、何れの掃除も然らざる家の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ 量であった。

(3)採塵の程度は、ほうきの場合 0.82μ 、電気掃除機の場合は 0.48μ であった。